

要注意 サクラの害虫

「クビアカツヤカミキリ」説明会に参加して

石田 隆久

9月8日(火) サクラの名所の佐保川小学校南門前集合でサクラの害虫に関する説明会があり、家のすぐ南側なので参加した。参加者は30人ほどで「奈良・人と自然の会」は会長を含めて7人である。県庁職員2人、樹木医が4人である。



県庁職員による集合場所での説明

大阪ではサクラの害虫「クビアカツヤカミキリ」の害が発生しているが奈良でも大いに警戒しなくてはならない。



「クビアカツヤカミキリ」の成虫
体長は 2.5～4 cm 全体に光沢のある黒色で胸部が赤い。活動期は 5 月末～8 月末。

サクラの名所「佐保川」では北南の岸辺に280本のサクラがある。樹齢もかなりの古木が多いので注意が必要である。



北南の2班に分かれて、古木を中心に観察、ラベルを貼る。

南北岸のサクラの点検を終え、佐保川小学校で「まとめ」が。



今日は「クビアカツヤカミキリ」の成虫も、幼虫もフラスもおかげさまで確認されなかった。



幼虫



幼虫が出すフラス

フラスとは幼虫のフンと木くずが混ざったものである。

9月末まで二週間に一回ほど280本のラベルのあるサクラを観察確認の必要がある。今年はまだ時期が過ぎつつあるが、来年が心配である。来年は4月末から9月末まで観察確認が必要である。害虫の活動時間は午前中とのことなので、近くに住む僕も来年は忘れないようにしたい。被害を拡大させないために、成虫、フラスを見かけたら駆除と情報提供が必要である。また、サクラだけでなく、ウメ、モモも要注意である。